1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2692800044		
法人名	特定非営利活動法人 水度坂友愛ホーム		
事業所名	グループホームゆうあい寺田		
所在地	京都府城陽市寺田乾出北45番地		
自己評価作成日	平成29年11月9日	評価結果市町村受理日	平成30年4月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JirvosyoCd=2692800044-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成30年1月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族との絆を大切に、家族の役割、職員の役割を理解した上で入居者に合ったサービスを提供している。入居者の残存機能を大切に持てる力を引き出し、最後まで維持することを目標にケアを行っている。
また家族や本人の思いを受け止め、その人らしい最後の看取りまで支援している。
(家族・本人・医師・看護師・介護職と年2回会議を開催し、最後の看取りについては確認を行っている。)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは地域との関わりを大切にしており、地域の音楽祭等に利用者に参加したり、園芸や食事作り等日常的に多くのボランティアの来訪があります。事業所全体の運動会には保育園児がホームを訪れ一緒に玉入れをしたり、節句には遊戯の披露や肩たたきしてもらうなど子どもたちとの関わりも持っています。また、法人主催の夏祭りには地域のボランティアの協力や多くの地域の方の参加があり共に交流する機会となっています。家族の協力も多く年末年始は家族がホームで入居者と一緒に寝食を共にしたり、外泊し家族と一緒に自宅で過ごすなど共に楽しむ機会を設け、看取り支援においても家族の協力を得ています。職員は入居者の残存機能を生かし麻雀や将棋、食事の準備などできることを引き出し利用者の楽しみごとや生きがいに繋げています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼にて理念を唱和し、実践につなげている。(月間目標も唱和している)	法人理念をリビングに掲示し年度初めの研修時に理念や運営方針について説明をすると共に朝礼にて唱和し職員に意識付けをしています。理念を基に月間目標を作成し前月の目標についてセンター会議で振り返り、達成状況を確認し次月の目標に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方とあいさつを交わしたり、地域の音楽祭等にも入居者と参加している。また、音楽サークルや傾聴のボランティアも来訪。地域のコーラス部に施設を開放している。	散歩時に地域の方と挨拶を交わしたり、法人主催の夏祭りには多くの地域の方の参加やボランティアの協力があり交流を図っています。併設事業所と合同で行う運動会には幼稚園児の参加もあり入居者と一緒に玉入れなどの競技に参加してもらったり、端午の節句にはお遊戯の披露や入居者の肩たたきなどをしてもらい子ども達との関わりを持っています。日頃から多くのボランティアの訪問もあり、地域との関わりが定着しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症予防教室や認知症カフェ、花植え事業を通して地域に貢献している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、入居者の現状等報告し、意見交換を行っている。 また、防災訓練・夏まつり等行事に参加協力していただいている。	会議は併設事業所と合同で行い自治会役員や民生児童委員、社会福祉協議会会員、市職員、地域包括支援センター職員等の参加を得て隔月に開催しています。入居者の状況や事故報告等を行い意見交換を行っています。地域の情報をもったり、行事に合わせて開催することもあり、防災訓練や餅つきなどに参加してもらうこともあります。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2ヶ月1回、地域密着連絡協議会に出席し、協力関係が築けるよう努めている。	運営推進会議に市職員の参加がありホームの理解を得ています。わからないことは電話で聞いており、物忘れ予防教室や涼やかスポット等の市の委託事業を受託し、市主催のふれあい祭りには職員を派遣しています。市から案内のある会議や研修には内容によっては参加するようにしており協力関係が築けるよう努めています。月2回市長の訪問もあります。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修を年1回実施。また常時ミーティング等で話し合い個々の対応を行っている。	年1回法人主催の身体拘束に関する研修を全職員が受講し理解を深めており、言葉遣い等については事例を挙げながらセンター会議で話し合い職員間で共有しています。不適切な言葉かけが見られた場合は管理者等が都度注意をしています。日中は施錠せず、外に出たい様子が見られたら職員が付き添いドライブや散歩に出かけています。	

グループホーム ゆうあい寺田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修を年1回実施。また、常時話し合い風通しの良い職場環境を作り、お互いのコミュニケーションを図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員同士で話し合うことはある。人権・権利についての研修は1回/年実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書をもとに説明し、理解、納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族の意見や要望はその都度、運営に反映させるように努めている。	入居者からは寿司を食べに行きたいなどの何気ない要望も見逃さず都度記録に残し実施するようになり、夜間入浴の希望には職員の勤務調整なども検討しています。家族からの意見や要望は年4回の家族会や面会時、サービス担当者会議時、電話等で聞いています。年間の行事は家族が参加しやすいよう意向を踏まえて日程調整を行うなど意見を運営に反映しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	センター会議(1回/月)で職員の意見を共有し、管理者会議に反映させている。また、職員の意見には管理者は耳を傾け、内容に応じて対応策を考え実施している。	職員からの意見や提案は各種会議や日々の業務の中で聞いており、環境や研修、広報などの各担当者からの意見が挙がることもあります。物品の配置換えや入居者の支援についてなど活発に意見が出されており職員間で検討し連絡ノートに記載すると共に実施に向けて取り組んでいます。物品購入等については都度センター長に相談し購入に繋げています。年2回の面談や随時の面談で意見や思いを聞くようにしており、防火管理者研修受講の希望等にも応えています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい職場環境のために、個々に合った労働時間や仕事内容に配慮している。(ワークバランスの導入)また、自己目標面談を年2回実施し、仕事へのやりがいにつなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任者の施設内研修、また、中堅者等の外部研修も積極的に取り入れている。		

グループホーム ゆうあい寺田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着会議での同業者との交流、また共同での取り組みにも人員を派遣している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	導入前に本人の生活状況や健康状態などを確認している。現在本人が一番困っていることは何かを把握した上でサービス担当者会議で確認し、希望等を入れ込むように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と本人のきずなを大切にしながら、家族が不安に思っていること、困っていることに耳を傾け、誠意のある対応をして関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	過去の情報や、本人、家族との対話から必要な支援を見極め、その結果をサービス提供に反映できるよう努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	この場で生きる者同士という視点を常に失わない様に心掛けている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いわゆる「預けっ放し」にならないよう、常に家族と連絡を取り合い、本人とのかかわりが持てるように面会時には本人と家族がゆっくりとできる環境づくりやスタッフとのコミュニケーションを図れるように配慮するなどの取り組みをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人等が、いつ面会に来られても良い旨を家族に伝えている。また、来訪時にはゆっくりと出来る環境に心掛けている。	年末年始の自宅への外泊や墓参りなど家族と外出する際は日程調整や身支度の準備等外出がスムーズに行えるよう支援しています。併設事業所の利用者の中にも顔馴染みの方がおり顔を合わす機会が多々あります。友人等の面会時には椅子やお茶の用意をしゆっくり過ごしてもらえるよう配慮し、以前から利用している美容院に友人に連れて行ってもらったり、教会のミサに職員付き添いのもと出かけるなど以前から関わりのある場所や人を大切にしたい支援に努めています。	

グループホーム ゆうあい寺田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士と一緒にフロアにいる事が自然であるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も手紙をいただいたり、来所して下さる家族もあり、関係性を大切にしたいと考えている。 また、行事等があるときには案内を差し上げ、参加して頂けるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各担当者が中心になり把握した入居者の意向を、他の職員に伝えて支援計画に反映させている。	自宅やホームに来てもらい面談し、生活歴や職歴、趣味、日々の暮らし方や最期に関する意向等を聞きアセスメントシートに記載しています。入居後は日々の関わりの中で聞いたことや気づいたこと、困難な場合は様子や表情等から汲み取りグループホーム会議で検討し職員間で共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との対話、または面会時などに家族からも情報を得るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「一般状態」記録、「個人記録」などに記入し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議での家族との話し合い、または事業所全体での会議の内容を反映させている。	本人や家族の意向を基に介護計画を作成し3ヶ月毎にモニタリングと再アセスメントを行い、達成状況と本人の状況確認をしています。6ヶ月毎に見直しを行い見直し前には家族や看護師、ケアマネジャー、職員の参加するサービス担当者会議を開催して検討し、必要に応じて往診時の医師の意見も反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「一般状態」記録、「個人記録」などに記入し、現状の把握に努めている。引継ぎやミーティングにより職員間で情報を共有し、実践に活かしている。		

グループホーム ゆうあい寺田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	小規模多機能型居宅介護事業所等、他部署と連携、交流し、個人のニーズに対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	文化パルク城陽での催しに参加したり、外食を楽しむ行事を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回、かかりつけ医の訪問診療で入居者全員が受診。異常があるときは電話で連絡している。	入居時にかかりつけ医について説明し、全入居者がホームの協力医に変更しています。月2回の往診があり24時間連絡可能となっており、状態に変化が見られた場合は看護師を通して指示を仰いでいます。専門医への受診は家族が対応し入居者の状況については書面や口頭で家族に伝え、受診の結果報告を受けています。必要に応じて職員が対応することもあり、結果は家族に伝えています。訪問歯科や訪問マッサージは必要な方や希望に応じて受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の入居者の様子は、看護師と連携をとりながら対応している。状態によっては医師に連絡を入れ、適切な対応ができるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際は、介護職員や看護師が病院に出向く等、情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時や年2回のサービス担当者会議で終末期の在り方等について、毎回確認している。	契約時に終末期の意向について家族に確認しており、重度化した場合は往診時に家族や職員も立ち合い医師から状況の説明をもらい今後の方針について話し合い共有しています。看取り支援時には家族の泊まりや頻回な面会、水分で口を湿らすなどの協力があり、家族と共に終末期支援に取り組んでいます。また、専門医や看護師からの研修もありアドバイス等ももらっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修等で急変時の対応について訓練している。		

グループホーム ゆうあい寺田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練(内1回は夜間想定)、年4回の消火器訓練を行っている。 緊急連絡体制の確立	年2回消防署立ち合いの下昼夜を想定し通報や水消火器での消火、スモーク体験、入居者に参加してもらい避難誘導等の訓練を行っており、消防署員からアドバイスをもらっています。日中想定は併設事業所と全体で行い、夜間想定は併設の小規模多機能事業所と合同で行っています。訓練は運営推進会議時に行うこともあり、その際にはメンバーに参加してもらっています。水や食材等を多めに確保し災害時の備蓄としています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設内にて法令遵守の研修を行い、また、日々気づいた点は職員同士で話し合っている。 必ずケアを実施する時は、声掛け、説明してから実施している。	職員は法人主催の法令遵守や職員倫理、個人情報保護などの研修を受け理解を深めています。入居者を目上の方と認識し、名前は基本は名字で呼び、失礼のない声かけに留意し、馴れ馴れしい対応が見られた場合は都度ミーティングで話し合う機会を持っています。入浴時の支援など希望があれば同性介助にも配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意向をできる限り聞くことができるよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを優先し、状態を判断しながら無理強いににならないよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧道具を持ち込んでいただいたり、介助しながら本人の身だしなみを支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器洗いや食器拭き等、本人が希望されればやっていただいている。	食事は昼食については調理担当職員が作り、併設事業所の利用者や職員とホールで一緒に談笑しながら食事を摂っています。朝食、夕食、日祝日の昼食は入居者の希望や畑で採れた野菜などを取り入れ事業所の職員が作っており、食器洗いや食器拭き、盛り付け、下膳等できることに携わってもらっています。おせち料理や流しそうめんなど季節毎の行事食を取り入れたり、外食や手作りおやつなども楽しみなものとなっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月1回、カロリー計算をして、栄養バランスに配慮している。水分量チェックを行い、脱水予防にも努めている。		

グループホーム ゆうあい寺田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをしている。(歯ブラシも使用している) 訪問歯科医との連携を図り、必要に応じて往診してもらっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はタイミングの良いトイレ誘導を心掛け、トイレでの排泄を促してリハビリパンツやパットを使用し、紙おむつの使用を減らすことを目指している。	トイレでの排泄を基本としており、全入居者の排泄チェック表をつけパターンを把握し個々のリズムに合わせてトイレへの声かけや誘導を行っています。排泄用品や支援方法についてミーティングや日々の業務で話し合い、おむつを使用していた方が布の下着に移行したり、夜間紙パンツを使用している方も日中は可能な限り布のパンツで過ごせるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝手作りのヨーグルトの提供と水分接種をすすめ、排便コントロールに努めている。また、便秘予防体操も毎日実践している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一応曜日は決めてあるが、拒否等ある場合は柔軟に対応している。	入浴は日曜日以外毎日準備をしており、週3回を目途に日中に支援しており、夜間入浴の希望があれば実施できるよう検討しています。季節のゆず湯や保湿効果のあるどくだみの湯などを取り入れたり、湯温も希望に応じて配慮しています。拒否のある場合は日にちを変更したり、声のかけ方に工夫をし無理のないよう入浴に繋げています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣に合わせて居室で休息、就寝してもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師を中心に、医師の指示を仰ぎながら支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別に対応している嗜好品もある。また、将棋や麻雀等の楽しみのある生活を支援している。		

グループホーム ゆうあい寺田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に個別外出のレクリエーションを実施している。また家族や友人との外出も支援している。	天候が良ければ広い敷地内を散歩したり、ドライブなどに出かけています。初詣や梅や桜の花見、紅葉見学など季節毎の外出の他、希望に合わせて教会のミサやコンサート、買い物など個別や少人数で出かけることもあります。友人や家族との外出や庭に出てベンチに座り日光浴をするなど外気に触れる機会も多く作っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員が同伴して買い物に出かける事もある。また、預り金から本人希望のものを購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人自ら電話することは難しい面もあるが、家族や友人からの電話は取り次ぎ、ゆっくりと話ができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は常に清潔にしておくよう配慮している。また、季節感を取り入れた飾りつけも行っている。	リビングや食卓に季節の花が活けられ、階段など随所に利用者と一緒に作成した作品が飾られ季節を感じることができます。随所にソファや椅子が置かれ好きな場所でゆったりと過ごすことができるよう配慮し、天窓には日よけ用の手作りのカーテンを取り付け、換気や掃除を毎日行い、加湿器や温湿度計を置き利用者の体感にも留意しながら快適に過ごせる共有空間作りに努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人の居室で自由に過ごしたり、フロアで他の入居者と自由に過ごすことができるよう工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた調度品や思い出の写真等を置くなどの工夫をして、できる限り自宅での生活に近づくことができるよう配慮している。	入居時に馴染みのある家具等持参してもらった物や、筆筒や化粧台、ラジオ、鏡台等持ち込まれた物を家族と相談しながら配置しています。換気や掃除を日々行い清潔保持に努め、家族の写真や聖書、将棋、スケッチブック、色鉛筆など大切なものや趣味のものなどをそばに置き、その人らしく安心して過ごせる居室作りに配慮しています。希望により布団を敷いて休むことも可能です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	エレベーターも使用するが、残存機能を活かすため階段も使用している。		